

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）
平成 31 年度採択テーマ
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合 評価
土石流とともに流出する流木塊の実態とその発達プロセスに基づく流木塊規模推定手法 (研究期間：H31 年度～R3 年度)	北海道大学 教授 山田 孝	B
<p><研究概要></p> <p>土石流に取り込まれた立木が土石流先頭部付近に集積して鳥の巣のような「流木塊」を形成し、谷出口から流出することが多い。流木塊は、橋梁の閉塞やその衝撃による家屋の破壊などの被害をもたらす。このような被害軽減のための基礎研究として、映像資料判読による流木塊の運動特性の解明、現地調査による流木塊の実態解明、物理モデルの考察、水理模型実験によって、谷出口から流出する流木塊の規模推定手法を提案する。</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>本研究では、映像資料判読による流木塊の運動特性の把握、および現地における流木塊の実態調査を基礎として、物理モデルと水理模型実験により、谷出口から流出する流木塊について、土石流先頭部が運搬可能な流木塊の規模を定常流として推定する手法を提案しており、今後の流木対策計画の高度化に有益な知見を与えることが期待できる。</p> <p>今後は、提案した物理モデルを用いた現地での検証結果を蓄積するとともに、引き続き、流木塊を含む土石流の運動特性等について研究を進めて頂きたい。</p> <p>また、流木被害の軽減に向けた視点を踏まえた研究を進めていくことが望まれる。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い